

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体					
乳幼児のむし歯ゼロ作戦			中保健センター					
事業目的	事業内容	活動指標	R2	R3	R4			
中区地域計画における「健康増進習慣の確立」「歯と口の健康教育の推進」をめざし、次のことに取り組む。 ○中区はむし歯を持つ乳幼児が堺市で多い区である（3歳児健康診査のデータより）。2歳頃は乳臼歯（奥歯）が生え始める大事な時期であり、このタイミングに歯科保健指導を行うことで、乳幼児のむし歯を減少、かかりつけ歯科の増加をめざす。	○1歳6か月児健康診査時に中区に住民票のある2歳児に、1歳6か月児健康診査時のむし歯菌活動性検査結果と2歳の歯科相談の案内を郵送し、積極的に受診勧奨を行う。 ○2歳時に保健センターで歯科健診と歯科保健指導を行い、その後は堺市フッ素塗布手帳を活用し地域のかかりつけ歯科につなぐ。	3歳児健康診査（3歳6か月児）のう蝕罹患率の減少	18.2%	14.0%	13.0%			
		3歳児健康診査時（3歳6か月児）にかかりつけ歯科をもつ児の増加	61.0%	57.9%	56.9%			
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性		
◎	2歳ごろは、乳臼歯が生え始める時期でもあり、歯みがきを嫌がる時期でもある。この時期に歯科保健指導を行うことで、児のむし歯予防と保護者の歯みがきに関する困りごとを共有し保護者支援にもつなげることができた。	○	保健センターで歯科検診・歯科保健指導を実施した後は、地域の歯科医院につなぎ、継続したむし歯予防を地域で取り組むことができた。	○	中区は乳幼児のむし歯が多い区であることを区民が知ることで、地域でむし歯予防に取り組むきっかけとなる。	○	歯科保健指導をうけることで、家庭での毎日の歯みがき習慣の動機付けをすることができた。他の事業と併せて行うことで、効率的に事業を行うことができた。	
⑤自立発展性		総合評価						
○	むし歯予防のみならず、歯みがき習慣やおやつのおべ方など望ましい生活習慣の獲得にもつなげることができた。また、かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科保健指導を受けることで将来の健全な歯と口の健康を保つことができる。	○	R2年度に電話相談を実施した児の、3健でのう蝕罹患率について評価を行った。電話相談を実施した375名中、中区で3健を受診したのは354名。そのうち3健でむし歯があった児は31名だった。また、おやつ指導もむし歯予防には重要と考え、R4年度は問診項目の「1日のおやつ回数は3回以上」、「3度の食事は規則正しく食べていますか？いいえ」のいずれかにチェックがついた児に対しては栄養士の個別相談を促した。結果、むし歯ゼロ作戦対象児でおやつ指導対象になった児は24名、実際に指導を行った児は10名で、栄養相談対象の4割に栄養個別相談を行うことができた。					
今後の方向性（課題、改善提案等）								
拡充 継続 見直し	R2年度からR4年度までは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、むし歯ゼロ作戦の受診勧奨の電話は実施してこなかった。そのため受診率の向上が課題と感じており、R4年度の受診率は49.1%に留まった。R5年度からは、むし歯ゼロ作戦対象児への受診勧奨の電話を再開し、受診率の向上を図る。かかりつけ歯科を持つ者の割合については、経年的に見て減少傾向である。むし歯が無くても定期受診をすることの大切さをより一層強く伝えていくことが次年度への課題であるとする。またR4年度に栄養相談を実施した児が、3健でどのように生活習慣が変化したのかを今後追跡し、評価を行っていく。							